

関西電力株式会社
取締役社長 八木 誠殿

2012年9月5日
日本共産党国会議員団近畿ブロック事務所
大阪府委員会
兵庫県委員会
京都府委員会
滋賀県委員会
奈良県委員会
和歌山県委員会

原発なしでも電力は足りていた。大飯原発3, 4号機の 運転停止、高浜原発の再稼働絶対反対、原発か らの撤退を求める申し入れ

貴社の「節電要請期間」(7月2日～9月7日)が間もなく終わる。貴社は政府と一体となって電力不足をあおり、計画停電で脅してまで、大飯原発3, 4号機の再稼働を強行した。しかし、今夏は一昨年並みの猛暑であったが、貴社の発表資料からも原発なしでも電力は足りていたことが明らかになった。「原発再稼働は何だったのか」が改めて問われる。

貴社は、今夏の需要想定は2987万^{kWh}だが、供給力は2542万^{kWh}しか確保できず、445万^{kWh}(15%)も不足するので、原発再稼働は不可欠としていた。しかし、原発を除いた今夏の最大供給実績(火力、水力、揚水、太陽光・地熱、他社受電の最大実績の合計)は、2946万^{kWh}で貴社の予想を大きく超えた。今夏の需要のピークは8月3日の2682万^{kWh}であったが、同日の供給は2999万^{kWh}で317万^{kWh}もの余力があった。同日の原発による電力供給は236万^{kWh}で、原発が動いていなくてもなお、81万^{kWh}の余力があったことになる。当初から貴社の想定は「過大需要」、「過少供給」だとの批判が寄せられていたが、事実で裏付けられた。

「国と関電は国民をだました」という批判は当然であり、計画停電の脅しで現場を混乱させたことは強く批判されるべきである。

大飯原発の再稼働は、道理も科学的知見もまったく欠けたものだった。貴社は高浜原発の再稼働にさえ言及しているが、もってのほかである。この間、原子力安全・保安院は大飯を含め6原発について原発敷地内の活断層の再調査を指示した。再稼働の無謀さはますます明らかである。貴社前での大飯再稼働反対を求める行動は広がり、国民は政府の意見公募によっても原発ゼロを強く求めている。よって以下の点を強く申し入れる。

記

- 一、ただちに大飯原発3, 4号機の再稼働中止、運転停止を行うこと。
- 二、高浜原発の再稼働は絶対に行わないこと。
- 三、原発からの撤退を決断し、再生可能エネルギーの爆発的普及に努めること。

以上